

平成 29 年度第 1 回 IODP 部会執行部会 議事録

日時:2017 年 6 月 24 日(土)13:00~17:00

場所:海洋研究開発機構 東京事務所 共用会議室 B

出席者:

執行部:益田晴恵(部会長・大阪市立大学) 狩野彰宏(東京大学)
黒田潤一郎(東京大学大気海洋研究所) 黒柳あずみ(東北大学) 林 為人(京都大学)
針金由美子(産業技術総合研究所) 道林克禎(静岡大学) 村山雅史(高知大学)
森下知晃(金沢大学) 山田泰広(JAMSTEC)

リエゾン:小村健太郎(陸上掘削部会長・防災科学技術研究所)

オブザーバー:木村 学(J-DESC 会長・東京大学)

倉本真一(JAMSTEC CDEX) 稲垣史生(JAMSTEC ODS)

事務局(JAMSTEC):花田晶公 肥田慎司 才善主門 高橋可江

欠席者:木下正高(部会長補佐・東京大学地震研究所) 齋藤めぐみ(国立科学博物館)

議事次第

<審議事項>

1. 前回会議(170421)議事録(案)確認・承認.....資料 1
2. 今年度の執行部会の活動予定.....資料 2
3. J-DESC の組織見直しについて
4. 議論における SNS 等のウェブサービスの活用検討
5. 船上ワークショップ”Core-Log-Seismic Investigation at Sea”.....資料 3
6. 「ちきゅう」浅部掘削プログラム(仮称)の実施.....資料 4
7. 「ちきゅう」特別見学会の実施検討(八戸).....資料 5
8. 日本地質学会及び日本地震学会への出展検討.....資料 6
9. 会員提案型活動審査委員の選出.....資料 7
10. オマーン掘削プロジェクトのアウトリーチ検討.....資料 8

<報告事項> ※「口頭報告」と記載のないものは原則として資料配付のみとする

11. IODP の動向
 - ・掘削航海動向報告.....資料 9
 - ・国際動向報告(JRFB、EPSP 報告、Ausutrasian WS 報告ほか).....資料 10
 - ・国際委員ローテーション.....資料 11
12. J-DESC 関連
 - ・大型研究の現状報告 ※口頭報告
 - ・総会后資料の修正.....資料 12
 - ・JpGU 出展報告.....資料 13
13. 陸上掘削部会の動向 ※口頭報告
14. その他

配布資料

資料 1	前回執行部会(170421)議事録(案)	資料 8	オマーン掘削関連 PR 対策整理検討メモ
資料 2	J-DESC 長期主要スケジュール	資料 9-1	掘削航海スケジュール
資料 3	船上 WS 概要(案)	資料 9-2	乗船決定・応募者リスト
資料 4-1	プログラム実施要領(案)	資料 10	国際会議報告書類
資料 4-2	プログラム企画書(原案)	資料 11	国際委員ローテーション
資料 5-1	八戸港「ちきゅう」イベントスケジュール(案)	資料 12	山中寿朗氏の IODP 部会執行部へのオブザーバー参加について(報告)
資料 5-2	過去の特別見学会実施要領の例	資料 13	JpGU-AGU2017 出展報告
資料 6	日本地質学会展示募集要項と昨年写真	参考	J-DESC 総会資料一
資料 7	会員提案型活動経費審査委員ローテーション		

議事録(案)

<審議事項>

1. 前回会議(170421)議事録(案)確認……………資料1
会議終了までに特段の修正の指摘はなく、原案どおり承認された。
2. 今年度の執行部会の活動予定……………資料2
事務局より、年間スケジュールを仮決定するよう提案があり、基本的に第4金曜日に実施することとなった。7月下旬から8月上旬にメール審議が入るかもしれない。
IODP Forum(9/11-13@上海)については、重要な事案なので、事前にJ-DESCコアメンバーで打ち合わせることとなった。

合意事項(170624-01):次回執行部会の開催は9/22(金)、次々回は11/24(金)とする。

実行項目(170624-01):IODP Forumに向けた事前会合の開催を調整する。

3. J-DESCの組織の見直しについて(ノンペーパー)
木村会長よりJ-DESCの組織の見直しについて説明があり、議論が行われた。
 - 意思決定が曖昧。最高意思決定機関は総会だが、それに次ぐべき理事会、幹事会が上手く機能していない。幹事会を軽くする。次の執行部会までに、何をどうするのかを考えるタスクフォースが必要ではないか。
 - 国際的に日本のIODPでの立場が大変な状況で、臨機応変に対応しなければならないが、そうはなっていない。組織の役割が明確化されておらず、責任の所在が不明瞭。執行部会は実務的な機関であって、大きな問題に対処する役割を与えられていない。「IODPの中で日本がどうあるべきか、どうありたいのか」という理念的なことを話し合う機関(会議体)がない。執行部会は忙しすぎて、理念的なことを議論できない。
 - 理念から実行にブレイクダウンするのは、幹事会。責任者をフォローするのが、執行部会。また、どう予算を取ってくるのか。担当幹事と執行部会を整理する。
 - (IODPとICDPの理念は変わらないので、)タスクフォースは両部会長、各ボードでキーパーソンとなっている人で構成する。Science的なことはもちろん、国際的な場所できちんと発言して存在感を示せる人でないといけない。
 - 木村会長に一任したい。執行部会からの提案として、木村会長主導でタスクフォースをつくり、組織を再編して分かり易くする。執行部会の午前中にタスクフォースをやってはどうか。
 - 旅費の節約の為に、効率的な(タスクフォースの)会議運営をする。

合意事項(170624-02):J-DESC組織見直しについては、執行部会からは独立したタスクフォースを木村会長主導で立ち上げ、そのタスクフォースにおいて進めていただくことを提言する。

4. 議論におけるSNS等のウェブサービスの活用検討(ノンペーパー)
木村会長より説明があり、議論が行われた。
Facebook等のSNSについては導入しないが、Basecamp等のプロジェクト管理サービスについては導入を検討することとなった。

実行項目(170624-02):Basecamp等のプロジェクト管理サービスについて事務局で調査を行う。

5. 船上ワークショップ”Core-Log-Seismic Investigation at Sea”……………資料3
事務局及び木村会長から資料3に従って、説明があった。

合意事項(170624-03):陸上掘削部会の了解を得られた場合、ワークショップ国内参加者の乗船旅費はJ-DESCで負担する。ただし、ショートコース参加者に必要なヘリコプター緊急脱出訓練HUETの経費(受講料、旅費等)は自己負担とする。

6. 「ちきゅう」浅部掘削プログラム(仮称)の実施……………資料4-1、4-2
事務局及び木村会長から資料4-1、2に従って、説明。
委員より、大まかな「ちきゅう」のスケジュールを示して欲しいとの要望があり、CIBに出している情報であれば、変更ありとの条件付きだが公表しているとの回答があった。また、以下の点が合意された。

合意事項(170624-04) :

- (1) 相談窓口については、J-DESC 代表アドレスとする。
- (2) 年 2 回の締切日については、5 月 1 日と 11 月 1 日。
- (3) 海外に向けての宣伝効果と、研究計画を立案するにあたり、組むべきいい相手を探すためにも、英語での WEB 発信をすること。
- (4) 乗船研究者に対しての支援については、「原則、乗船しない」というレアケースであることもあり、J-DESC としては今年度の旅費の支援はしない。

7. 「ちきゅう」特別見学会の実施検討(八戸)……………資料5-1、5-2
事務局より、資料5-1、5-2に従って説明があった。

合意事項(170624-05) :J-DESC として特別見学会を実施する。

実行項目(170624-03) :事務局で実施計画案を作成し、7月に入ってからメール審議を行う。

8. 日本地質学会及び日本地震学会への出展検討……………資料6
益田部会長及び事務局より、資料6に従って説明があった。

合意事項(170624-06) :JAMSTEC 地震センターと出展費用を折半して共同出展する方針で調整する。

9. 会員提案型活動審査委員の選出……………資料7
事務局より、資料7に従って説明があり、委員の選出が行われた。

合意事項(170624-07) :審査委員長に林委員、審査委員に黒田委員、黒柳委員を選出する。

実行項目(170624-04) :執行部会以外から選定する 1 名については、益田部会長より候補者に打診する。

10. オマーン掘削プロジェクトのアウトリーチ検討……………資料8
事務局及び道林委員より、資料8に従って説明があった。

<報告事項>

報告事項については各委員確認してほしい旨、益田部会長より連絡があった。

益田部会長より、木下部会長補佐よりメールにて「大型研究マスタープラン・ロードマップ 2017 に関する応募経緯」について、木下部会長補佐からメールにて報告があり、今後どのように取り組んでいくかを今後、議論しなければならないとの発言があり、次回審議事項となった。

益田部会長より、沖野委員よりメールにて「掘削提案の種を探す」ような日本・アジア域の包括的なワークショップを J-DESC で主導するとよいので、掘削提案を積極的にできるようにブレインストーミングできる会員提案型のワークショップを今年度目途に開きたいとの要望を受けているので、心に留めておいていただきたいとの発言があった。

以上